

～安心を未来へ～

2012年2月10日発行 2月号 No. 204

◇「三組織合同セミナー・新年会」

研修委員長 渋谷隆義〔千代田支部 (株)ユニコム〕

平成23年度ロジ研・女性部・青年部による三組織合同セミナーが2月8日明治記念館において開催されました。今回は、ロジ研が担当というので大島研修副委員長の推薦で講師に小児外科医で特定非営利活動法人ジャパンハートの代表の吉岡秀人先生をお招きしました。最初にテレビの情熱大陸で放映された映像で、先生がミャンマーにて無償で幼い子供達を懸命に治療している姿を見てもらい、その後、先生に現地の医療の実体についてお話いただきました。



講演中の吉岡先生



寄付金を贈呈

普段、日本に住む私達には想像もできない様な現実を写真やビデオで見た時は会場から驚きの声があがりました。吉岡先生の「例えば死んでも心が救われている医療、生まれてきて良かった、私は、生まれてくる価値があったと思える医療。人は大切にされるだけでどんな障害があっても価値があるって思う。その人のことを大切に扱う。例えば小さな子供でも、貧しくても貧しくなくても大切に扱うその心の姿勢」という言葉に大変感動しました。

講演会終了後、吉岡先生も出席して新年会となりました。

24年 東ト協三組織合同新年会



佐久間、竹内、原の各本部長



飯村支局長



大高会長

主催者を代表して、ロジ研の竹内本部長が青年部の佐久間本部長と女性部の原本部長と一緒に登壇し、挨拶では、高村光太郎の詩「道程」を引用し、「勇気を持って踏み出すことで必ず道は拓ける」と挨拶。飯村支局長より自然災害の状況や国際経済情勢を踏まえ、厳しい状況にあるが、三組織の皆さんにはより一層、結束を強められ、難局を乗り越えていただきたいとご挨拶いただきました。

大高会長は、支部重視の協会運営、支部活性化による業界の活性化、情報がきちっと伝わる体制づくり、これも一人では何もできないわけでございます。これを実行して行く上でぜひ皆さんの力をお借りしたいと思ひます。柔軟でパワフルな知恵と行動力で業界を活性化し元気にしていただきたいとご挨拶いただきました。

また、竹内本部長の発案でセミナーと新年会の会場で募金を募ったところ多くの参加者より寄付をいただき、竹内本部長より吉岡先生に贈呈してなごやかに終了しました。

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

○ 2/15(水)17:00 第3回オープンセミナー(東ト総合会館)(受付中)

2/27(月)15:00 経営者セミナー「TPP」(東ト総合会館)(受付中)

○ 3/13(火) ロジ研フォーラム(東ト総合会館)(企画中)

長期予定・青年部総会 6/6、ロジ研総会 6/11、女性部総会 6/12(予定)

◇「新宿支部オープンセミナーに参加して」

広報委員長 山田正信〔足立支部 (株)森田商運〕

1/26に新宿支部オープンセミナーの講師が三橋貴明氏だと聞き及び、是非にと参加をさせて頂きました。

今回、三橋氏は「増税亡国論」と題して講演を執り行いました。現政権は社会保障の為に消費税を引き上げる法案を可決しようと躍起だが、「このデフレ期最中に増税などを行ったらさらに景気が悪化をする」。三橋氏はデフレ脱却論を提示しながら現政権の経済政策に対し批判をする。

三橋氏曰く「現在、国内では金の借り手が無く、現況の様なデフレ期に民間企業には設備投資をする元気はない。デフレを脱却するにはGDPを強引にでも引き上げなければならない。今それを主導するのは国であり政府である。つまり国債を発行し公共事業を増やすべきだ。今は東海地震対策の建造物耐震化や東日本大震災復興と言う大義がある」と主張する。

また、多くのメディアの論評が様に「国債の発行は財政赤字のもと、公共事業は悪である」と決めつけているが、「高速道路整備において、お隣韓国よりも劣っており、我が国は主要先進国の中で最低の水準になってしまった。パフォーマンスの事業仕訳で公共事業減少させるなどとんでもない」と実数値を示しながら説明をする。

「そうして一番の元凶は日銀であり、戦後より、日銀官僚は円安を嫌い、円高基調を好む傾向にあるので、思い切った金融緩和を行わない。政府は日銀に対し大量に円を刷らせ、国債を引き受けさせて、復興を含む公共事業を発注し、日本全体に金を回すのが先決である」と主張する。

「いい加減なくマスコミの偏向報道や政府の隠蔽体質は、我が国を間違った方向に向かわせているのでは？」とも語っていた。

安易な消費税増税賛成は日本経済に更なる深刻な問題を残すのかもしれない。感化しやすい私は、御尤もと頷いてしまった。

◇「労基」

先月、労働基準監督署の訪問があった。今回は厳しいものではなく聞き取り調査が主で改善基準のポイントの説明等簡素なものだった。一つ驚いた事は指導員の方はいずれも社労士等外部の方だったという事。

事前にアンケートを配布する事になっていたそうだが、手違いでその場で回答して、説明して終了という流れの中で、改善点も一点あり報告書の提出は求められているが、それ以外は問題なし。最後に質問や意見をということで、まずは口頭で「指導員の方にお話ししても法律改正をしてもらわない事には始まりませんが・・・」と前置きしたうえで、「日本の長引く不況の発端は週40時間労働にあるのではないのでしょうか？経済成長期と言われていた子供の頃、父親は土曜も遅くまで働いていた。このままだとアジアの発展途上諸国に追い抜かれるのも時間の問題だと思います。今はゆとり教育という名のもとに公立学校は土日が休みで、その一方で近所の朝鮮学校は土曜も学校へ通っている。休みが多く安定給与と言われている公立学校の先生のレベルが低下し続ける中、私立校へのお受験熱は高まるばかり・・・。矛盾ばかりですよ。」と話したら、「そんな話は初めてされた。是非書いて下さい。」と言われたので、短いながら、記入した。

一部始終を聞いていた事務員より、「よくあそこまで色んな話を相手に投げかけますよね(;^_^A)」と笑われたが、あらゆる方向から攻めないとも何も変わらないと思うし、近々、解散選挙があるかもしれないと言われている中、税と社会保障の一体化という一つのテーマより、そういう事を考えてくれる政治家を応援したいと思う。

ロジ裏研太郎